

たものき いせき 田面木遺跡現地見学会資料

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

1. 遺跡の紹介

田面木遺跡は、馬淵川沿いにある標高25～50mの丘陵地にあります。遺跡は東西約400m、南北約800mの広さがあり、市内の遺跡のなかでも規模が大きい遺跡です。これまでに46か所で調査が行われており、主に奈良・平安時代のムラの跡が発見されています。今回の調査は、長芋・ごぼう作付けによるものです。平成26年7月末から調査を行っています。調査の結果、奈良・平安時代のムラの跡がみつかりました。

2. 今回の調査成果

今回の調査では、奈良・平安時代の^{たてあなじゆうきよあと}竪穴住居跡が22棟・古代の土坑6基・^{ほったてぼしらたて}掘立柱建物跡が1棟みつかりました。遺物は、^{はじき}土師器や^{すえき}須恵器などが出土しています。

【遺構】

奈良時代・・・竪穴住居跡 2棟
平安時代・・・竪穴住居跡 20棟
古代・・・土坑 6基
掘立柱建物跡 1棟

【遺物】

^{はじき}土師器・^{すえき}須恵器・^{てつせいひん}鉄製品・^{どせいひん}土製品・^{せつき}石器

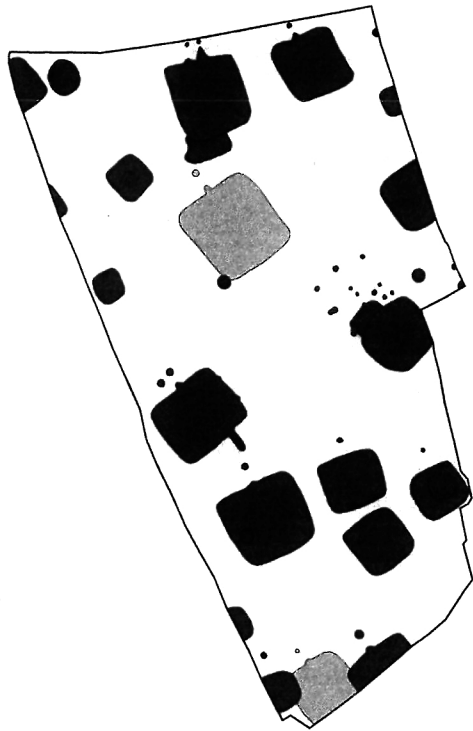
注目されることは、平安時代の竪穴住居跡から、^{てつせいひん}鉄製品や、^{はぐち}ふいごの羽口・^{てつせい}鉄滓など鍛冶^かに関連する遺物が出土していることです。竪穴住居跡には、カマドとよばれる煮炊きをする場所がありますが、それとは別に、住居の中央付近に^{ろあと}炉跡がみつかりました。^{かじ}鍛冶関連の遺物が出土していることから、この炉は鍛冶炉として使われ、鉄器の製作や修理をしていた可能性があります。



竪穴住居のようす

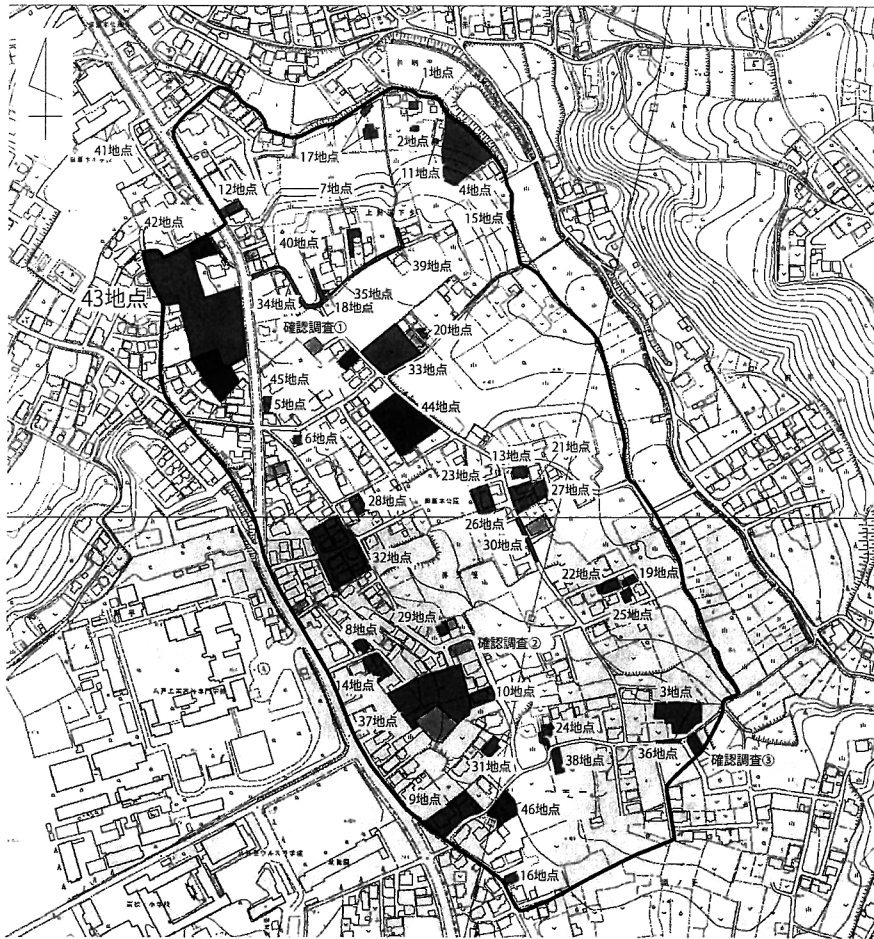


むらのイメージ図



- たてあなじゆうきよあと
- 竪穴住居跡 2 棟 (奈良時代)
 - 竪穴住居跡 2 0 棟 (平安時代)
 - 土坑 6 基
- ほったてばしらたてもあと
- 掘立柱建物跡 1 棟

いこうはいち ず たてあなじゆうきよあと
遺構配置図 (みつかった竪穴住居跡などの位置を示した図です)



これまでに調査を行った場所 (46か所)